

関恒義名誉教授主要著作目録

著書

- 『ゲームの理論』（みすず書房『経営数学講座』5）1958年
『現代資本主義と経済理論』新評論，1968年
『経済学発展史』青木書店，1972年
『近代経済学の破産』青木書店，1976年
『経済学と数学利用』大月書店，1979年
『経済民主主義論』青木書店，1981年

編書

- 『現代の経済学』上・下，青木書店，1979年
『経済学辞典』大月書店，1979年
『行政改革と日本の進路』大月書店，1982年
『臨調行革の構図』大月書店，1983年
『コンピュータ革命と現代社会』全3巻，大月書店，1986年
『日本と世界』（日本科学者会議創立20周年記念出版『21世紀への跳躍』全5巻の第1巻）三省堂，1988年

共著

- 自治体問題研究所編『地域と自治体』第8集，自治体問題研究社，1978年
日本科学者会議編『日本の食糧問題』上・下，大月書店，1978年
同会議編『日本のエネルギー問題』大月書店，1980年
同会議編『都市の食糧問題』大月書店，1983年
同会議編『日本の科学技術』大月書店，1986年
日教組大学部編『大学の未来と臨教審』大月書店，1987年

訳書

- M・ドップ『経済理論と社会主義』I・II（共訳）岩波書店，1958年
A・フレッチャー，G・クラーク『経営と数学』（監訳）日本評論社，1966年
M・ブローグ『経済理論の歴史』上・中・下（共訳）東洋経済新報社，1968年
同書改訂版I・II・III・IV（共訳）東洋経済新報社，1985—1986年
マーチャーシュ・アントル『近代経済学の歴史』（監訳）大月書店，1984年

パンフレット

- 立命館大学民科政治研究会『現代の政治反動と「行政改革」』1981年12月
 民営化問題研究会『臨調路線と経済民主主義——電電民営化論に関連して』1982年6月
 日教組大学部『今日の政治・経済情勢——円高不況と産業空洞化を克服するわれわれの立場』1987年3月
 関先生最終講義(1988年1月26日)録 経済学部「一橋大学と私の経済学」大学院「これからの一橋大学の経済学について」

論文(論評・解説を含む)

1 数学利用にかかわるもの

- 1948年 一橋大学卒業論文『均衡方程式系にかんする試論』1月提出
 1949年 助手審査論文「分配束の方程式」「効用の可測性」「ノイマンの生産方程式とマルクスの再生産式」3月提出
 1951年 「静学分析の基礎」『一橋論叢』9月号
 1955年 「均衡決定の諸条件」一橋大学研究年報『経済学研究』第1号 3月
 「厚生函数設定の条件」『一橋大学創立80周年記念論文集』9月
 1956年 「賃金闘争のモデル分析」『経済研究』1月号
 「社会順序の機構」理論経済学会誌『理論経済学』10月
 1957年 「活動分析と均衡分析」山田雄三・久武雅夫編『経済分析シンポジウム』第1分冊 日本評論社 4月
 「ゲームの公理」同上第4分冊 8月
 1963年 「マルクス経済学における数学利用の問題」経済理論学会誌『戦後景気循環と二つの経済学』5月
 「社会主義諸国の産業連関バランス」(岡, 宮鍋, 高須賀各氏との共同研究)『経済研究』7月号
 1970年 「計量経済学の基本性格」『一橋論叢』4月号
 1973年 「再生産表式と本書の分析との関係」守屋典郎『紡績生産費分析』御茶の水書房 12月
 1976年 「経済学との関連で数学を学ぶために」『経済セミナー』1月増刊号
 1977年 「経済学と数学利用」『経済』7月号(1978年12月号まで14回連載)
 1978年 「社会科学と数学的方法」『一橋論叢』4月号
 1982年 「数理経済学」一橋大学百年記念『一橋大学学問史』12月

2 運動にかかわるもの

- 1952年 「賃銀決定機構の分析をめぐる」『機労文化』8月号
 1955年 「賃金闘争における賃金理論」『賃金基本調査レポート9』東洋経済新報社 6月

- 1956年 「戦前・戦後における労働組合の賃金政策——国鉄労組・機関車労組の場合」
『賃金基本調査』東洋経済新報社 2月
「理論生計費について」『家庭科教育』9月号
- 1958年 「賃金要求方式をめぐる一問題」 中山伊知郎博士還暦記念論文集『経済の安定と進歩』7月
- 1959年 「伸びゆく社会主義——未来を泥沼から救うもの」『津田塾学生新聞』6月30日号
- 1960年 「総評と動力車の賃金原則」『働く力』11月号
- 1964年 「ベトナム問題科学者集会によせて」『一橋新聞』5月30日号
- 1966年 「国際労働運動に課せられた問題」『国学院大学新聞』9月10日号
- 1973年 「加速化するインフレと科学者の立場」『日本の科学者』12月号
- 1977年 「“参加”をめぐる理論的諸問題」『赤旗評論特集版』9月12日号
- 1978年 「経済民主主義と労働運動の課題」『賃金と社会保障』4月下旬号
- 1979年 「一般消費税と演劇」『風の子』5月30日号
- 1980年 「80年代の国際情報（上）——民主主義的、社会主義的勢力の飛躍する年代」『日ソ経済調査資料』5月15日
- 1981年 「政府・独占資本のねらう反動的『行政改革』の特徴と公務労働者のたたか
いの方向」『国公労調査時報』4月号
「国民主権と消費者裁判」『消費者運動』12月号
- 1985年 「時代錯誤の臨調『行革』」『自治労小金井』市民版 3月
- 1987年 「財界による大学支配の野望ゆるすな——大学審議会設置法案粉碎に広範な
勢力の結集を」『赤旗評論特集版』6月29日号
- 1988年 「帝国主義の復活・強化すめる新経済体制の構築——ますます激化する矛
盾」労働者教育協会編『1988年度日経連「労問研報告」批判』3月

3 方法論にかかわるもの

- 1954年 「日本経済分析的方法的基礎」 中山伊知郎編『日本経済の構造分析』東洋経
済新報社 3月
- 1955年 「論理実証主義の一問題」『一橋論叢』6月号
- 1961年 「数学と弁証法について」 一橋大学研究年報『人文科学・自然科学研究』3
月
「社会科学における歴史と論理」『中央公論』4月号
- 1962年 「“技術論”をめぐる若干の問題」『一橋論叢』1月号
- 1967年 「数学的方法の性格」 一橋大学研究年報『自然科学研究』3月
- 1972年 「経済学は諸科学の基礎」『祖国と学問のために』5月17日号
- 1977年 「民主的経済モデルへの接近」『前衛』7月号
- 1984年 「現代の経済学方法論の基本問題」『日本の科学者』3月号
- 1987年 「21世紀をどう展望するか」『経済』1月号

4 学説にかかわるもの

- 1954年 「効用・厚生および価値」『一橋論叢』12月号
 1957年 「価値論の機構について」『一橋論叢』2月号
 1961年 「ローザルクセンブルク」『一橋論叢』4月号
 1963年 「産業連関論の源泉と性格」『経済研究』1月号
 1965年 「ランゲの計量経済学観について」『久武雅夫先生還暦記念論文集』10月
 1967年 「ワルラス『純粹経済学要論』」『経済セミナー』6月号別冊付録『近代経済学古典案内』
 「サムエルソン経済学の性格」『学生新聞』10月25日号（11月22日号まで5回連載）
 1968年 「日本のブルジョア経済学」上・下『経済』10月号, 12月号
 1971年 「ローザンヌ学派の性格」『一橋論叢』4月号
 1972年 「マルクス主義経済学と近代経済学」『経済セミナー』4月臨時増刊号『マルクス経済学入門』
 1975年 「ラディカル・エコノミックスの性格」『環境文化』4月号
 「近代経済学の出発点としての新古典派」『月刊学習』5月号
 「ケインズ経済学の基本性格」『月刊学習』6月号
 1981年 「商品学と広義の価値論」『一橋論叢』12月号
 1983年 「マルクス没後百年間の経済学——ケインズとシュンペーター生誕百年に関連させて——」『科学と思想』7月号
 1984年 「“一橋経済学”とマルクス経済学の関係」『一橋論叢』4月号
 1986年 「種瀬茂君の生涯と業績」『科学と思想』10月号

5 経済学批判にかかわるもの

- 1960年 「『近代経済学批判』にかんする覚書」一橋大学研究年報『経済学研究』3月
 「ドップの批判について」『一橋論叢』5月号
 「『計量経済学批判』にかんする覚書」『経済研究』7月号
 1961年 「近代経済学内在的批判の盲点」『エコノミスト』3月28日号
 1970年 「国家独占資本主義弁護論とブルジョアの社会主義像」『経済』4月号
 1971年 「『近代経済学』のマルクス主義経済学批判の批判」『経済』5月号
 「ブルジョア経済学の崩壊とニクソンの『新政策』」『経済』12月号
 1975年 「『近代経済学』者の日本経済論批判」『経済』11月号
 1978年 「国家独占資本主義論における理論・思想問題」『科学と思想』4月号
 1979年 「エネルギーをめぐるイデオロギー上の諸問題」『科学と思想』7月号
 1983年 「深まる資本主義の危機に処方箋失った近代経済学」『赤旗評論特集版』5月16日号
 1984年 「現実によって破産宣告された福祉国家論」『労働運動』5月号

1988年 「竹下『ふるさと創生』論の真実」『赤旗評論特集版』1月4日号

6 現代資本主義にかかわるもの

1972年 「現代資本主義の性格規定にかんする若干の問題」『日本の科学者』9月号

1973年 「ローマ・クラブと資本主義体制の危機」『経済』9月号

1974年 「現代資本主義の危機と近代経済学の破産」『前衛』4月号

1975年 「経済危機とファシズム」『日本の科学者』1月号

「近代経済学の破産とインフレの激化」渡辺佐平編『インフレと暮し』新日本新書 11月

1977年 「昭和52年度予算案の性格」『母親しんぶん』2月15日号

1978年 「経済危機の打開と地域・自治体」『住民と自治』5月号

「国家独占資本主義の蓄積構造」『一橋論叢』10月号

「日本の国家独占資本主義と行政民主化」渡辺佐平編『民主的行政改革の理論』大月書店 12月

1979年 「東京サミットと資本主義の動向」『青年運動』8・9月合併号

1981年 「資本主義の構造的危機と産業構造の転換」『日本の科学者』11月号

1982年 「世界資本主義の危機とサミット」『赤旗評論特集版』6月21日号

「ゆきづまる日本経済と求められる食糧・エネルギーの自給力強化」『めぐり』冬季号

1984年 「日本資本主義の現況と政治動向」『憲法運動』8月号

1985年 「国家独占資本主義と公務労働」講座『日本の労働運動』第4巻『経済民主主義運動』大月書店 4月

1988年 「始まった『裸の金利戦争』——利子にはすべて20%課税」『現代』1月号

7 政策路線にかかわるもの

1978年 「日本をダメにする“工業立国”論」『あすの農村』3月号

1980年 「政策科学研究所『国際化時代におけるわが国農業のあり方』批判」『農業協同組合』8月号

「農政審答申『80年代農政の基本方向』批判——総合安保・三全総の具体化」『労農のなかま』11月号

1981年 「経済民主主義と行政改革」『法律時報』3月臨時増刊号

「農業を国民的産業の基軸に」民間農政審議会の提言『どうする日本の食糧・農業』7月

「許されぬ『福祉切り捨て』」『時事教養』9月号

「第二臨調・行革大綱の本質とねらい」『労働運動』10月号

1982年 「『行政改革』は軍拡のための国際路線」『婦人通信』1月臨時号

「臨調行革路線のめざすもの」『全国保険医通信』6月号

「反動的・反国民的行革を仕上げる基本答申」『全商連資料』6月号

- 1983年 『『受益者負担』をどう考えるか——行財政を“かねで買え”論』『暮らしと政治』4月号
 「臨調最終答申批判」『全商連資料』5月号
- 1984年 「危機の時代の経済路線を問う——反動と革新の根本的分岐点」『前衛』1月号
 「臨調行革＝国家改造路線と税制改革」『民商』12月号
- 1986年 「エネルギー危機を救うもの」『ナム』7月号
 「臨調・行革審5年の『決算書』——行革審の最終答申を批判する」『赤旗評論特集版』7月7日号
 「科学技術政策のあり方をめぐる諸問題」『大学部時報』9月号
- 1987年 「レーガンへの新たな中曾根誓約『新前川リポート』の実像」『赤旗評論特集版』5月11日号
 「政府・独占の『情報革命』戦略」『経済』12月号
- 1988年 「科学技術会議13号答申の背景とそのねらい」『国公労調査時報』1月号
 「財界の経済的要求と教育」『みんなのねがい』3月号

書評・時評

- 1951年 ノイマン, モルゲンシュテルン『遊戯の理論と経済行動』『一橋論叢』2月号
 森嶋通夫『動学的経済理論』『経済研究』4月号
- 1954年 都留重人・大川一司編『日本経済の分析』『アジア研究』2号 10月
- 1958年 置塩信雄『再生産の理論』『経済研究』1月号
- 1961年 二階堂副包『現代経済学の数学的方法』『経済研究』4月号
- 1962年 越村信三郎『マルクス主義計量経済学』『経済研究』4月号
- 1964年 O・ランゲ『政治経済学』(竹浪祥一郎訳)『エコノミスト』8月4日号
 ルカーシほか編『投入産出表——その作成と利用』『経済研究』10月号
- 1965年 山口正之『マルクス主義と産業社会論』『経済』11月号
- 1968年 J・コルナイ『構造決定の数学的計画法』『経済研究』1月号
- 1974年 論壇時評(田沼, 河村, 北村とともに)『赤旗』1974年4月—1975年3月
- 1976年 不破哲三・上田耕一郎『理論戦線の到達点と課題』『経済』6月号
 蔵原惟人『イデオロギーの併存と思想闘争』『前衛』9月号
- 1977年 松浦総三『『文芸春秋』の研究』『文化評論』7月号
- 1979年 論壇時評(旗田, 山科とともに)『赤旗』1979年4月—1980年3月
 「『大月経済学辞典』刊行に寄せて」『朝日新聞』5月6日
- 1981年 日本共産党『国民のための財政百科』『前衛』4月号
- 1982年 西沢富夫『自主独立の立場と現代の世界』『赤旗』4月19日
 林直道『現代の日本経済』(第3版)『経済』5月号
- 1983年 大野隆男『臨調路線批判』『赤旗』10月3日

1988年 リレー時評『日高教情報』5月1日, 6月1日, 7月11日, 8月11日, 9月21日, 10月21日

辞典・事典

- 1954年 『近代経済学辞典』春秋社(1966年に新版), 「安定条件」など
 1955年 『経済学大辞典』東洋経済新報社, 「効用の可測性」
 1965年 『経済学辞典』岩波書店(1979年に新版), 「均衡理論」など
 1967年 『社会科学辞典』新日本出版社(1978年に新版), 「近代経済学」など
 1979年 『経済学辞典』大月書店, 「ブルジョア経済学」「経済民主主義」など
 1981年 『マルクス・レーニン主義事典』社会思想社, 「近代経済学とマルクス主義経済学」など

講演・座談会(シンポジウムを含む)

- 1959年 「リニア・プログラミング」(一橋大学開放講座講演要旨)『如水会報』6月号
 1965年 座談会「社会科学と数学」(小島守生, 関寛治, 田中靖政, 綿貫譲治)『数学セミナー』3月号
 1968年 座談会「最近の大学問題について考える」(竹内峯, 稲葉三千代, 平田熙, 公川広士, 渡辺洋三, 畠山英高)『大学教組』8月15日
 1973年 座談会「科学・技術論の現代的課題」(加藤邦興, 田添一, 芝田進午, 新道道隆, 秋間実)『日本の科学者』3月号
 1974年 シンポジウム「革新の時代と経済学の課題」(一ノ瀬秀文, 岩尾裕純, 金子ハルオ, 木原正雄, 工藤晃)『経済』5月号
 1975年 講演「政策科学の動向と社会科学の課題」立命館大学産業社会学会『講座・70年代日本における社会問題と社会科学』3月
 シンポジウム「世界資本主義の危機と多国籍企業」(佐々木建一, 一ノ瀬秀文, 坂井昭夫, 建部正義, 長砂実)『日本の科学者』9月号
 1976年 鼎談「これから経済学を学ぶ人たちへ」(島田豊, 林直道)『経済』5月号
 1977年 座談会「経済学と諸科学——学際的協力を求めて」(半谷高久, 宮村光重, 中島篤之助, 西川栄一)『経済』5月号
 座談会「日本の科学技術政策——『6号答申』をめぐる」(高久清, 植村幸正, 岡倉古志郎, 藤井陽一郎)『日本の科学者』12月号
 1978年 講演「経済危機の現状・背景と打開の方向」『国公労調査時報』3月号
 『国公労連78春闘学習討論集会(1月14—16日)』特集
 座談会「食糧をめぐる技術と経済」(井野隆一, 岩田進午, 永田恵十郎, 長谷川彰, 宮村光重)『経済』5月号
 1979年 講演「国家独占資本主義と経済民主主義」労働者教育協会『70年代の総括と80年代への展望』8月

- シンポジウム「公務労働と民主的行政改革」(原田純郎, 田沼肇, 猿橋真)『労働運動』10月号
- 1980年 講演「80年代の地域・自治体問題」『自治体労働運動'80』自治体研究社2月
 鼎談「進歩と革新の旗をかかげて——『経済』創刊200号を記念して」(林直道, 戸木田嘉久)『経済』12月号
- 1981年 シンポジウム「コンピュータ・情報化の新段階」(石沢篤郎, 君塚芳郎, 高木教典, 山本幹夫)『経済』6月号
 シンポジウム「民主社会主義イデオロギー批判」(秋間実, 田沼肇, 西岡幸泰, 山科三郎)『科学と思想』7月号, 10月号
- 1982年 対談「臨調第二ラウンド——その焦点と破たん論理」(室井力)『経済』4月号
 講演「臨調路線で活力ある福祉社会は可能か——大砲とバターと」『保育白書』8月
 座談会「臨調行革と国民の立場」(室井力, 中西啓之, 平井都士夫, 工藤晃)『経済』8月号
- 1983年 座談会「田中判決と日本の選択」(正森成二, 長谷川正安, 小林栄三)『文化評論』12月号
- 1984年 シンポジウム「春闘をめぐる情勢の特徴と闘争方向」(大木一訓, 高木督夫, 黒川俊雄, 春山明)『労働運動』1月号, 2月号, 3月号
 講演「財界は今何をしようとしているか——教育臨調の背景にあるもの」都教組『教育臨調の学習資料集』7月
 討論「軍拡と軍縮の経済学」(坂井昭夫, 佐藤昌一郎, 鷲見友好)『経済』10月号
- 1986年 座談会「国民春闘再構築めざして」(上田耕一郎, 引間博愛, 内山昂, 大木一訓)『労働運動』1月号
 講演「どうなる これからの暮らしと経済」『婦人通信』10月号
- 1987年 報告「SDI 参加は日本の科学技術に何をもたらすか」日科・日教組大学部・同私学部・科労協・学研労協共催(1986年11月15日)『日本の科学・技術とSDI』シンポジウム報告集
 放映「いまなぜ農業攻撃か」TVK テレビ『緑への歩み』シリーズ(2月8日)
 報告「経済学から見た21世紀農業」山崎農業研究所報『耕』夏季号
 講演「88春闘をめぐる情勢の特徴」金融共闘機関誌『金融のなかま』12月号
- 1988年 講演「90年代日本の動向」都職労『組織総括集会報告(3月16—18日)』Part II
 講演「日本の科学技術の進路と課題」かながわ科学技術シンポジウム(6月17日)『県科学技術政策を考える』
 「現在の資本主義と社会主義の関係」(一橋大学開放講座講演要旨)『如水会報』

9月号

随想・あいさつ (巻頭言を含む)

- 1959年 「新入生を迎えて——自分の立場や進路を再考せよ」『一橋新聞』4月10日号
- 1960年 「部長(山岳部)交代の弁」『針葉樹』第12号7月
「アンデス登山隊派遣によせて」『針葉樹会報』復刊6号10月
- 1962年 「近経の牙城への疑問」『一橋新聞』3月10日号
- 1965年 「ゼミという窓をとおしてみた一橋大学の移りかわり」『恒友』創刊号 3月
- 1967年 「大田先生の死を悼む」『針葉樹会報』10月31日
- 1970年 「大学での勉強について——社会科学」『学生新聞』5月27日
- 1975年 「編者まえがき」岡稔『資本主義分析の理論的諸問題』『社会主義経済論の新展開』新評論社
- 1979年 未来社会への挑戦「模索から創造へ——未来は青年の手に」『学習の友』6月号
- 1981年 「“教育パパ”の時代」『ちいさいなかま』6月号
- 1984年 「“人生50年”から“人生80年”へ」『恒友』第3号(還暦記念号)12月
「発刊にあたって 報告集を明日の闘いの糧に」第4回大学部教職員研究集会報告『84国民のための大学』12月
- 1985年 「発刊にあたって」日教組大学部『学術情報システムと大学図書館』7月
「21世紀を展望して青年運動を大きくしよう」日教組大学部青年協議会『第15回全国青年集会』9月
「婦人運動は国民運動の母体である」日教組大学部婦人協議会『第23回国公立大学婦人職員全国集会』11月
「主催者あいさつ」『第27回全国医大懇報告集』11月
- 1986年 「発刊によせて」『大学部時報』創刊号(1月号)
巻頭言「山に登れなくなった男」『月刊保田連』10月号
- 1987年 随想「いまなぜ売上税か」『法学教室』4月号
- 1988年 「いのちの森からの旅だち」『小平学報』1月